

## 日本の技術で途上国の環境汚染問題解決に貢献！

—群馬県発の医療廃棄物処理装置で、タイの医療廃棄物の適正処理を目指す—

国際協力機構(JICA)は9月2日、群馬県高崎市の株式会社キンセイ産業が開発した環境にも優しい次世代焼却炉による、医療廃棄物適正処理案件化調査を仮採択としました。



タイでは、急速な経済成長により一般・産業・医療廃棄物が増加傾向にあり、とりわけ医療廃棄物については、感染症につながる有害物質が含まれているため、その適正な処理が求められています。



提案製品である「乾溜ガス化焼却装置」は、日本産業機械工業協会の「優秀環境装置賞」を受賞し、また国連工業開発機構(UNIDO)東京事務所の「日本の優れた環境技術6選」の1つとして認定されました。同製品は、廃棄物を蒸し焼き状態にし、可燃性ガスを発生させ、その可燃性ガスと空気を混合させることにより、医療廃棄物を完全燃焼させるというオンリーワンの技術を有します。医療廃棄物自身がもつエネルギーをガス化し燃焼するとい

う特殊技術により、燃焼の際に必要な助熱材(重油)を従来比で約56%削減でき、かつ、処理量1トン当たり約0.67トンのCO<sub>2</sub>排出削減も可能となる見込みです。これに加え、焼却後廃棄物量の約10%の焼却灰を残す一般の焼却装置と比べ、同製品で処理した場合、焼却灰が3%以下となるなど、焼却灰の処理費用も削減され、焼却灰に起因する人体・環境への影響を緩和することにもつながるとされています。今回の調査では、環境行政を重視しているプーケット市を対象とし、現地の医療廃棄物を取り巻く環境について更に分析し、本製品の現地への適合可能性を検討します。

この調査は、我が国の中小企業を対象とした「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」として実施されます。案件化調査は、途上国の開発ニーズと日本の中小企業の優れた製品・技術等とのマッチングを行い、製品・技術をODA事業に活用するための情報収集・事業計画立案等を支援することを目的としたもので、2012年度から実施されており、2014年度は本年5月に公示を行いました。176件の応募のうち26件が仮採択され、今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。